

一般社団法人新技術協会からの研修会開催のご案内

平成29年2月

各 位

一般社団法人 新技術協会
会 長 伊藤 源嗣



強い企業になるための技術経営（MOT）手法の基本講座

社会経済活動の一層のグローバル化とIoT化が進展する中で企業規模や業種に関わらず、時代のトレンドに合致した企業戦略とその実行が求められています。とりわけ、どのような想定外の企業環境変化にも速やかに対応出来ることが強い企業には求められています。

強い企業の条件には、どのような環境変化にあっても、

- ①独創的な新商品開発ができること
- ②売上利益率を高水準に維持できること
- ③新しいビジネス・モデルを構築し、新しいビジネス・チャンスを発見できること
- ④企業環境変化に対応したダイバーシティ・マネジメントができること

などが挙げられます。

それには経営工学的な知識とその技術経営の実務的な手法の能力の修得が不可欠となっています。

近年、技術経営（MOT：management of technology）という言葉が周知され、理解が深まってきております。そこで、技術経営の知識の周知と普及に永年にわたり携わってまいりました飯沼光夫先生（千葉商科大学・名誉教授）にお願いして新たに技術経営の基本講座「強い企業になるための技術経営（MOT）手法の基本講座」を計画し、別紙プログラムの通り、来る平成29年4月14日（金）を第1回目として毎月1回（原則第2金曜日）、全10回に亘り開講することに致しました。

毎回参加者による討議の時間を設けております。活発な意見交換により講義の内容をより深く理解していただき実践に役立てることができるようになっております。

是非とも、企業の皆様の多数ご参加をお待ち致しております。

【実施要領】

1. 期 間 : 平成29年4月～平成30年1月 (全10回)
第1回 開催 平成29年4月14日(金)
毎月1回(原則として第2金曜日開催)
※8月は、第3金曜(18日)に開催
2. 開催時間 : 14時～16時30分(2時間30分)
講義 : 2時間
討議 : 30分
3. 会 場 : 科学技術振興機構(JST)東京本部
東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
科学技術振興機構(JST)東京本部別館
東京都千代田区五番町7 K's 五番町
4. 合宿研修 : [日時] 平成29年5月12日(金)14時～13日(土)12時
(第2回) [場所] ホテルニューアカオ熱海を予定
5. 資 料 : 毎回講義資料や参考資料を配布いたします。
5. 参加費 : 1名につき25万円(全10回 合宿研修費を含みます。)
(申込後、新技術協会より請求書をお送りさせていただきますので、
指定の口座へお振り込みをお願い致します。)
6. 申し込み先 : 一般社団法人 新技術協会
担当 : 中里京子、山口和雄
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24
湯島ペアービル9階
TEL 03-3868-2077 / FAX 03-3868-2050
Eメール shingikyou@shingikyou.or.jp

「強い企業になるための技術経営(MOT)手法の基本講座」 プログラム(全10回)

【第1回(4月14日)】

強い企業になるための技術経営力強化の基本(総論編)

強い企業の経営者は、まず、『夢』を描くことに始まり、その『夢』を人に語ることが全ての経営活動の第一歩である。強い企業になるために役立つ経営工学的手法は、学習によって習得し、強化することができる。

固定概念に拘束されずに、想定外の自由な発想ができることが学習の第一歩である。

参考文献:『経営戦略プランニング・ガイド』(飯沼光夫著・日本能率協会・1985年12月)

:『企業戦略と情報—情報管理から情報経営へ』(飯沼光夫著・「これからの情報担当者」日本科学技術情報センター・1991年3月)

:『<改訂版>最新経営管理技術用語解説』(飯沼光夫共著・日本能率協会・1984年6月)

【第2回講座(5月19日~20日)】(1泊2日の合宿)

新ビジネスの創出を目指して ~グループによる討論と結果発表~

『世界一の人口急減少と超少子・高齢化社会の日本だからこそ、生み出せるビジネス好機(opportunity)はあるのか』という課題についてグループ討論し、結果を発表する。

経営工学手法の一つである関連樹木法を用いた課題群の分析と因果関係図の作成によって、グループで想定外の発想の訓練を行う。(合宿会場は未定)

1日目(午後):グループ討論 2日目(午前):討論結果のまとめ・発表

【第3回講座(6月9日)】

戦略的(strategic)商品企画の基本

What to do:戦略(strategy)から、How to do:戦術(tactics)への企画の流れを体得する。戦略は、企業の意思を明示するところから始まる。戦略の失敗は、戦術ではカバーできない。戦略なき戦術のみでは、企業競争には絶対に勝てない。それは海図なき航海に等しい。

参考文献:『企画の基本』(飯沼光夫共著・日本能率協会・1981年11月)

【第4回講座(7月14日)】

インテリジェンス(intelligence; 特定の人にとって価値ある有用情報) を創り出す手法の基本

DataやKnowledgeから、Intelligenceを創り出す情報収集とその分析・評価・加工などの活用手法を学ぶ。

情報洪水に溺れずに知り得た知識から知恵を生み出す手法を学ぶ。価値ある情報を得るには、ギヴ・アンド・テイクの原則が成り立つ強い人間関係の構築が不可欠の条件で

ある。

- 参考文献:『情報収集と活用法』(飯沼光夫著・日本能率協会・1985年2月)
:『情報を活かす力』(池上彰著・PHP研究所・2016年7月)
:『インテリジェンスの最強テキスト』(手島龍一/佐藤優著・東京堂・2015年9月)

【第5回講座 (8月18日)】

誰よりも早く自社にとって望ましい未来を探索する 予測(forecasting)手法の基本

バラ色の未来と灰色の未来の間の想定外のところに本当の未来は、必ず存在する。
だから、現状延長型の発想の世界には、未来はない。

未来はすでに“そこ”にあるものではなく、自らの手で作り出すものである。

- 参考文献:『シナリオ・ライティング入門』(飯沼光夫著・日本能率協会・1982年6月)
:『日本の技術—未来年表(1982年~2010年)—』(デルファイ法による技術予測調査結果)
(科学技術庁計画局編・(社)科学技術と経済の会・1983年2月)

【第6回講座 (9月8日)】

価値ある強い知的財産権 (intellectual property right) を生み出し、 それを活用する基本

所有権(有体物を絶対的に支配する最強の物権)から財産権(経済的利益の享受を目的とする権利)への転換の意味を知る。ハードウェアとソフトウェアとネットウェアの融合が強い財産権を形成し、独創的なビジネス・モデルで市場を創る。

ソフトウェア・ネットアプリなければ、スマホもただの箱。

- 参考文献:『情報経済論(新版)』(飯沼光夫共著/有斐閣・1987年6月)
:『情報仮想空間と日本の選択』(飯沼光夫共著/富士通経営研修所・1995年7月)
:『戦標の Patent マフィア』(ヘンリー幸田・山本弘人著/DHC・1995年10月)

【第7回講座 (10月13日)】

非常識を常識にする独創性 (originality) 発揮の基本

模倣(明治)・創造(戦後)への道から、独創(科学技術基本法;1995年)への道への転換を探索する日本の歴史に学ぶ。

独創を苦手とする日本人の精神風土からの解放が第一。失敗から学ぶセレンディピティを活かせば、ノーベル賞につながる。

- 参考文献:『続独創』(西澤潤一編:(財)半導体研究振興会・1986年5月)
:『ZERO to One: 君はゼロから何を生み出せるか』(ピーター・ティール著/NHK出版・2014年9月)
:『ジョブズが憧れた伝説のエンジニア・佐々木正:ロケット・ササキ』(大西康之著/新潮社・2016年5月)
:『セレンディピティ: 思いがけない発見・発明のドラマ』R.M.ロバーツ著/化学同人・1993年10月)

【第8回講座 (11月10日)】

幾らでも豊富にアイデアを生み出せる発想力を身に付ける手法の基本

多様な発想法を学び、周囲を気にせずに、一見、馬鹿げたアイデアを気軽に言える発想力を鍛える環境・風土・文化を創る必要がある。

感情の壁、常識の壁、論理の壁、年齢・性別・人種・言語・地位・業種の壁を突破できれば、斬新なアイデアは幾らでも出てくる。ブレイン・ストーミングやディベートの訓練は不可欠の条件。

参考文献:『2000年間で最大の発明は何か』(ジョン・ブロックマン編/草思社・2000年1月)
:『異学発想の勧め』(中松義郎著/講談社・1986年4月)

【第9回講座(12月8日)】

産学官連携・企業間連携 (strategic alliance) による新商品創出の基本

産学官、異業種企業間など相互の価値観やヴィジョンや業務ルールの違いの相互理解が原点。とりわけ、企業会計制度と公会計制度との相違点を十分に理解しておくことが相互理解のポイントである。そして相互の業務分担と具体的な達成目標の明確化がポイントとなる。各種の公的技術開発資金援助制度の活用が成功の決め手になる。

近年、産学官連携の大学発ベンチャーが注目を集めるようになってきた。融資先が納得するような売り上げ予想が立つ位の未来構想では、ベンチャーとは言えない。

参考文献:『産学官連携によるイノベーション創出の成功要因に関する調査研究(成功した10事例の調査)』(飯沼光夫委員長/(財)新技術振興渡辺記念会 研究助成事業・2008年3月)
:『IFRS(国際会計基準)の基本』(飯塚隆・前川南加子,有光琢郎著/日本経済新聞社・2010年4月)
:『大学発ベンチャー・産業構造変革の可能性(事例報告)』(産学官連携ジャーナル・科学技術振興機構・2016年10月号)
:『感性の勝利:大賀典雄・孫正義』(佐藤正忠著/経済界・1996年11月)

【第10回講座(1月12日)】

本当のやる気を生み出す産業心理学的マネジメントである 動機づけ (motivation) の基本

必ず存在する開発担当者とリーダーとの開発目的の認識のギャップを認識し、そのギャップを埋める。開発リーダーには、やる気、本気、根気、負けん気、元気の五つの気が不可欠。さらに、企業トップの明快な企業意思の明示が重要である。

参考文献:『技術者の動機づけ』(飯沼光夫共著・マネジメント社・1979年2月)
:『R&Dモチベーション・ノウハウブック 我が国企業の研究者・研究リーダーに関する意識調査 1,2巻(1973年~1977年の4年間実施)』(飯沼光夫共著/(社)科学技術と経済の会・1977年2月)
:『トップが選ぶ注目社長172人』(文芸春秋2016.6月号)

講師：千葉商科大学・名誉教授 飯沼光夫

略歴：

1937年 横浜生まれ。

1959年 東京都立大学(現首都大学東京)工学部工業化学科(電気化学専攻)卒業

1963年 産業能率短期大学生産能率科(生産管理士)卒業

横浜ゴム、三笠電機製作所(電子部品)で技術開発・商品開発業務に携わった後

1971年 (社)科学技術と経済の会に奉職

調査部長並びに技術経営会議(議長・小林宏治氏・NEC社長)創設(1974年)後、事務局長として活躍し、会員企業の協力を得て、技術経営に関する調査研究を多数実施、その成果の普及に努めた。

1986年 千葉商科大学商経学部・大学院商学研究科に移り、経営学科の専門科目である『管理工学』、『意思決定論』、『情報資源管理論』、『産業技術史論』を担当した。その間に、商経学部経営学科長を務める。2007年、定年退職後、名誉教授に就任。

飯沼光夫氏は、当協会前身の新技术懇談会から、講演会やセミナーの講師や受託調査研究などの調査研究員として活躍している。

また、科学技術会議専門委員や市川市行財政改革懇話会会長など公的機関の委員などを閲歴している。

著書には、『シナリオライティング入門』(日本能率協会)、『新規事業開発のための情報収集と活用法』(日本能率協会)、『シナリオライティング法による経営プランニング・ガイド』(日本能率協会)、『情報経済論』(共著・有斐閣)、『企画の基本』(共著・日本能率協会)、『技術者の動機づけ』(共著・マネジメント社)、『ハイテクノロジー・マネジメント』(共著・日刊工業新聞社)など、その他著書、論文、講演など多数。

FAX 03-3868-2050

～申し込みファクシミリ用紙～

一般社団法人新技術協会 行

平成29年__月__日

「強い企業になるための技術経営(MOT)手法の基本講座」

参加申込書

御社名

所在地 〒

TEL/FAX /

E-MAIL

所属・役職名

フリガナ

御出席者名

研修会への参加を推薦された方の役職・氏名